

基本的な考え方

1 概要

こども家族館は、開館から12年が経過し展示設備の老朽化等の問題が生じており、令和5年度の開館15周年に向けて、展示内容等を充実させるためのリニューアルを行う。

<参考>屋外エリア(大型遊具、スケートパーク等) R3工事、R4先行オープン

2 リニューアルの基本的な考え方

『遊びを通じた子どもの成長と子育て家庭のやすらぎを支える拠点の創造』

3 ゾーン構成の見直し

上記の考え方に基づきゾーン構成の見直しを実施

<現在>

2F
◆あそび探検ゾーン
【5, 6歳~小学校低学年】
○ボールプール、こども探検号

◆交流ゾーン
【乳幼児】
○ちびっこひろば

1F
◆展示ゾーン
【5, 6歳~小学校低学年】
○ダビンチの壁など各種展示

◆工房ゾーン
【5, 6歳~小学校低学年】
○ものづくりや料理体験施設

【屋外】
◆芝生広場、多目的広場
【幼児~小学校低学年】

<改善後>

◆空と海の冒険ゾーン(2F)
【5, 6歳~小学校高学年】

◆家族のやすらぎと知育ゾーン(1F)
【乳幼児~小学校低学年】

◆スポーツ・レクリエーション施設(屋外)
【幼児~青年・若者】
○大型遊具、芝生広場
○スケートパーク、3×3バスケットコート

※[]内は主な利用者層

展示改善に向けた方向性

【空と海の冒険ゾーン(2F)】

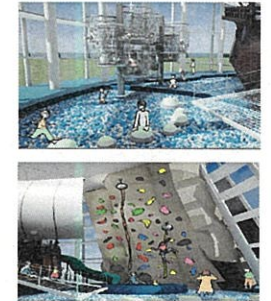
■子どもが遊びを通じて、自分の能力や可能性を発見し成長できるゾーン

<イメージ>

- 対象層を小学校高学年まで拡大するとともに、年齢と発達に応じた難易度の遊びを準備し、子どもが遊びながらステップアップできる、**子どもの成功体験と自信を育むエリア**を創出

- 吹き抜け空間を最大限活用した**シンボリック大型遊具**の設置
(例)空の雲や海の崖をイメージした大型ネット遊具やクライミング壁、ジップラインなど「空中散歩」ができる空間アスレチック遊具

- 新型コロナウイルスの感染対策を踏まえたボールプール等の運用**
(例)消毒機器・設備の導入、感染拡大時には代替の遊具の設置



【家族のやすらぎと知育ゾーン(1F)】

■子育て家庭が安心してくつろげ、親子で一緒に楽しみながら子どもの健やかな成長を促すことができるゾーン

<イメージ>

- 家族がやすらぎや心地よさを感じられる施設になるよう、1階部分を木や海などの自然をモチーフにした内装にリニューアル

- 親子で一緒に楽しむことができる乳幼児向けの**知育・木育施設**や**子ども同士や親子が頭や身体を使って楽しむことのできる展示**を導入し、子どもの可能性を広げることができる環境を構築

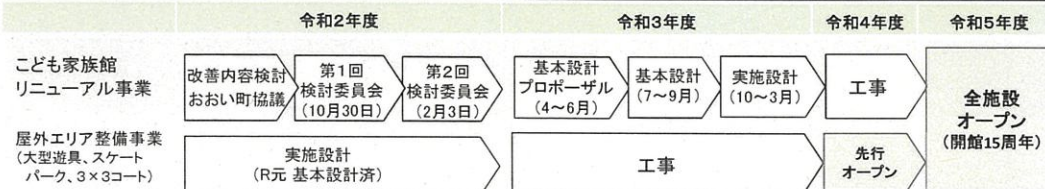
- (例)壁や床を木で統一し、木のおもちゃをふんだんに取り入れた親子で一緒に楽しむことのできる施設

- (例)プロジェクターを活用した身体の動きに反応し遊ぶことのできる展示

- 屋外エリアのスケートパーク等と連続性**を持ち調和のとれた空間の創造



事業計画



○事業費 約5億円 (うちこども家族館リニューアル4億、屋外エリア整備1億) (電源立地交付金)

プログラムの充実

■こども家族館を展示以外でも魅力の溢れる施設とするため、各種プログラム・イベントを充実

- (例)福井県児童科学館と連携した科学教室イベントなどを定期開催

- (例)展望エリアを活用した婚活イベントなど、時間帯によって大人も楽しむことのできる行事の開催